

令和5年度小学校動物飼育推進校 実践事例

－生命の尊さを実感させる継続的な動物飼育－



令和4・5年度 小学校動物飼育推進校

- 墨田区立東吾嬬小学校
- 世田谷区立松沢小学校
- 中野区立美鳩小学校
- 青梅市立河辺小学校
- 多摩市立連光寺小学校

○令和5年度の実践事例

- ・衛生管理に係る実践事例
- ・体験活動に係る実践事例
- ・研修会に係る実践事例

過去の実践事例及び最新の実践事例等については、東京都教育委員会のホームページに掲載しています。

<https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/animal.html>



推進校では、飼育動物の衛生管理を適正に行っていくに当たって、学校担当獣医師から飼育動物の健康診断や飼育環境についての指導・助言等の支援を受けています。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

実践事例

墨田区立東吾嬬小学校

【実践の概要】

- 第5・6学年の飼育委員会の児童が、ウサギのゲージの掃除、水替え、餌やりをしています。
- 学校担当獣医師に見ていただき、基本的な世話に加え、抱っこや爪切りの仕方について指導・助言をいただきました。



優しく抱っこをして爪切りや、足の裏の点検をします。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 飼育委員会の活動時、ゲストティーチャーとして学校担当獣医師をお迎えし、実際に当番活動での世話の仕方を見て助言をいただきました。
- 昨年度教えていただいたことを確認しながら丁寧な飼育ができました。
 - ①ウサギを持ち上げるときは座る。
 - ②飲み水の量に気を付ける。
 - ③餌はチモシーを与えることで歯の伸び過ぎを防ぐ。
 - ④視線を合わせないようにするためウサギが隠れることができる小屋や囲いを設置する。
 - ⑤夏の暑さや冬の寒さの対策として、飼育用ゲージをエアコンがある部屋に入れ、ウサギの負担を減らす。
- 継続的な飼育のために、今年度は上手な抱っこの仕方と爪を切る方法を教えていただきました。

【児童の反応】

- 学校担当獣医師からの指導を受けての飼育が2年目となり、自信をもって世話をする様子が見られました。また、飼育日誌を毎日つけることで、ウサギの変化に気付き、飼育環境に気を配ることができました。
- 第2学年の児童が生活科でウサギの世話を体験したときには、飼育委員会児童は自信をもって世話の仕方を教えました。児童から、飼育委員会は大変であるという印象をもたれていましたが、今ではウサギの世話をしたいと愛着をもって接しようとする児童が増えました。



実践事例

世田谷区立松沢小学校

【実践の概要】

- 飼育委員会(第5学年・第6学年)の児童が、学校担当獣医師からウサギが快適に過ごせる環境について教えていただき、今までの飼育方法を改善して小屋の掃除、餌やりをかかさず行いました。
- 第1学年の児童は、ウサギなどの動物と触れ合う学習を行いました。心臓の音を聴いて動物の体調の変化についての話を伺いました。



【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 飼育委員会活動時、ゲストティーチャーとして学校担当獣医師をお迎えし、実際に飼育小屋の環境やウサギの健康状態等を確認いただいたあとに、指導・助言をいただきました。
- 飼っているウサギの毛が抜けてしまったときには、学校担当獣医師がすぐに学校に駆けつけ、ウサギの状態を診てくださり、飼育方法の助言をしたり、塗り薬を処方したりと、迅速な対応をしてくださいました。

【児童の反応】

- ウサギの生態を知ることによってウサギに興味をもち、ウサギが快適に過ごせるように、糞の始末や小屋の掃除を以前と比べてきれいに行うなど、飼育活動に関する意識が高まってきました。
- ウサギの行動には意味があることを知り、ウサギをよく観察していきたいという気持ちをもつようになりました。



実践事例

中野区立美鳩小学校

【実践の概要】

- 飼育委員会の児童が、休み時間を使って、モルモットが気持ちよく過ごせるように、小屋の掃除や餌やりを行いました。また、第2学年の児童が、毎日モルモットの日誌をつけて、健康状態を記録しました。
- 放課後は、外の飼育小屋で飼育しているため、冷暖房の機械を設置するなど、モルモットの健康を保つための工夫を行いました。

11月20日 月 曜日 おんど 19℃ ミフ

当番

○ようす 元気・おとなしい・ぐったりしている

○体重 49.45 グラム

○うんちの形 たわらがた・まるい形・そのほか()

○うんちの色 黒色・ちゃ色・こげちゃ色・そのほか()

○うんちのりょう 多い・少ない

○のこっているエサのりょう 0 グラム

○新しく入れたエサのりょう 0 グラム

モルモットの日誌

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師に来ていただき、第2学年の教室のモルモット小屋の状況を見ていただきました。牧草や餌の種類や適切な量、触れあう前後には手指を衛生的に保つなど様々な助言をいただきました。
- 保護者に長期休業中のモルモットのホームステイの希望をとり、希望のあった御家庭にモルモットをお預かりいただきました。学校ではその間に、モルモット小屋の大掃除を行いました。

【児童の反応】

- 飼育委員会の児童は、昨年度から「命を預かる」という自覚から、責任をもって掃除を行っています。それが良き伝統となり、今年度の児童もきれいに掃除をしています。また、モルモットのけがや、爪の長さ、毛の抜け具合など小さな変化にも気付き、飼育担当教員に報告をしてくれます。
- 第2学年では、年度初めは糞尿の処理を嫌がる児童もいました。しかし、お世話し続けることで、糞尿を嫌がる児童は減りました。また、小屋掃除の際に糞の形が違うことに気付き、健康面に問題があるのではないかと考える児童も出てきました。



実践事例

青梅市立河辺小学校

【実践の概要】

- 以下の実践を行いました。
 - ・ウサギの健康診断
 - ・ウサギの体の特徴を知る
 - ・ウサギに合った餌やり
 - ・ウサギにとって快適な環境づくり
(夏は涼しく、冬は暖かく)
(適正な衛生的管理を行う)



透明で厚いアクリル板で覆った飼育小屋

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師にウサギの体重から必要なペレットの量を計算してもらい、専用カップを作りました。
- 学校担当獣医師の指導により、餌は牧草を中心にしました。ウサギがようやく食べるようになりました。
- 飼育ボランティアさん（保護者）が休日・祝日や学校閉庁日に世話をしています。また、ウサギの様子について報告をしていただいています。



ペレットの量を測るカップ・牧草を食べるウサギ

【児童の反応】

- 飼育委員会の児童は、動物を飼うということは「命を預かること」と改めて自覚し、責任感が増しました。
- ウサギの体の特徴を知ることで、適正な飼育ができるようになりました。
- ウサギの様子を飼育日誌に残すとともに、気になることがあれば、すぐに担当の教員に報告するようになりました。



実践事例

多摩市立連光寺小学校

【実践の概要】

- 昨年度、飼育環境について学校担当獣医師からの指導を受け、室内ケージ飼いに変更したウサギですが、さらに排せつ場所を固定してあげるとよいとのアドバイスから、トイレを設置しました。
- ウサギ 1 羽の臀部に皮膚病の痕跡が見られたため、学校担当獣医師に相談し、診断・処方をしていただきました。



右上に三角形のトイレを設置

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- ケージ内のトイレ設置により、2羽のウサギともに排せつを確実にトイレできるようになりました。衛生管理上、床に排せつ物が散らばることがなくなり、より良い環境になったと学校担当獣医師より話をいただきました。また、長期休業中にウサギを預かる家庭にも大変好印象でした。
- ウサギ 1 羽の臀部に皮膚病については、学校担当獣医師が細菌検査をしてもらい、人に感染するものではないことを確認しました。また、薬を処方していただき、教員が対応することで、2週間ほどで完治しました。



処方された薬

【児童の反応】

- ウサギのケージ内のトイレ設置により、排せつ物を床に直接することがなくなったため、トイレのおむつシートを交換し、トイレ容器を洗浄するだけで済むようになり、児童にとっても処理が簡易になり有益でした。床面の掃除回数が激減しました。
- ウサギが皮膚病となった際には、学校担当獣医師による対応やその後の飼育に関する助言を通して、児童にとってより身近に共生している生き物であるという感覚が育ちました。トイレ以外にも、ウサギたちが快適な生活を送るため環境を調える場面も見られるようになりました。

研 修 会 に 係 る 実 践 事 例

★★★★★★★★★★★★★★

推進校は、動物の適正な飼育や動物愛護の心を培う体験活動の実施に向け、研修会を行っています。その際、学校担当獣医師から、動物飼育に関わる専門的な内容について指導を受けています。

★★

実践事例

墨田区立東吾嬬小学校

【実践の概要】

- ウサギの飼育環境管理について、学校担当獣医師から指導を受けた飼育委員会担当教員が、本校の教員を対象に研修会を開きました。
- 墨田区教育委員会研究協力校として、理科・生活科の授業研究に取り組み、研究発表会を開催しました。動物飼育についての授業を公開し、学校全体で飼育に取り組む様子や、生活科で動物飼育の実践を、多くの参観者に知っていただく機会となりました。



【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- ウサギの体調で気になることがあれば、飼育委員会担当教員が学校担当獣医師に相談して指導を受けました。専門的な指導を受けることで、安心して飼育することができました。
- 学校便りや学校運営連絡協議会にて、小学校動物飼育推進校としての取組を紹介することで、保護者や地域の方にもウサギを可愛がっていただいています。

【教員の反応】

- 昨年度、本校のウサギは大変臆病であることが分かり、その性質を教員で共通理解し、怖がらせないような飼育を心掛けてきました。このことが児童にも伝わり、ウサギも安心して過ごせていると感じています。
- 飼育管理についてのOJT研修会を通して、飼育委員会担当教員が不在でも、教員が同じやり方で世話ができるようになりました。
- 今年度は、ウサギの足裏に皮膚の炎症があり心配しましたが、相談できる獣医師がいることはとても心強く、悪化を防ぐことができました。

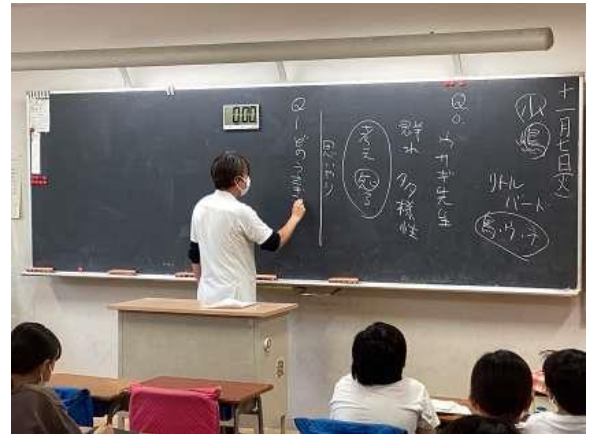


実践事例

世田谷区立松沢小学校

【実践の概要】

- 学校担当獣医師をお招きし、ウサギの飼育方法についてお話を伺いました。
- 暑さ・寒さに合った飼育環境の整え方を教えていただいたことで、年間を通して、気候・温度、湿度等の条件を意識して最善の飼育方法を選択することができました。
- 第1学年生活科の「動物ふれあい教室」学習に向けて、事前打合せを入念に行い、授業をどのように進めていくのか相談しました。また、児童が動物と接する際の注意事項等についても教えていただきました。



【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 教員から学校担当獣医師へ質問し、それに回答していただくことで、今後の動物との関わり方や飼育環境について、具体的な改善案や方法を知ることができました。

【教員の反応】

- 学校担当獣医師から指導を受け、ウサギの生態や飼育方法等の基本的な知識を得ることができました。
- 「動物ふれあい教室」の学習を進めるにあたり、授業の進め方や動物に関わる際の配慮事項等を事前にレクチャーいただいたことで、当日は保護者ボランティアを活用し、スムーズに授業を進めることができました。



実践事例

中野区立美鳩小学校

【実践の概要】

- 学校担当獣医師をお招きし、今年度本校に異動してきた教員向けに、学校における動物飼育の意義や目的などを学ぶ研修会を実施しました。
- モルモットの生態や食べ物、病気や死亡してしまったときの対応など、具体的な例を学校担当獣医師から教えていただきました。



ホームステイ説明会の準備の様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 年度初めに、学校担当獣医師を本校にお招きし、研修会を実施したり、授業の日程や内容を話し合い、年間計画を作成したりしました。研修会では、教員も体験活動ができるように、モルモットの抱き方などの指導もしていただきました。
- 長期休業中の御家庭へのホームステイの前に説明会を行い、作成したホームステイマニュアルを活用して、保護者にモルモットの飼育方法について説明をしました。

【教員の反応】

- 学校担当獣医師からの指導を受け、モルモットの生態について詳しく知ることができました。また、動物に触れあうのが苦手な教員も、これを機に触る体験をすることができました。
- モルモットの飼育担当教員以外にも、普段からモルモットに関わろうとする教員が出てきました。



実践事例

青梅市立河辺小学校

【実践の概要】

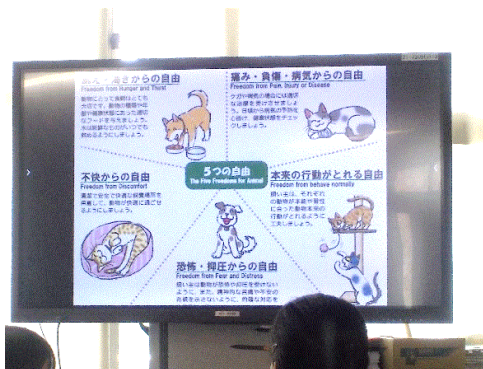
- 学校担当獣医師より以下の指導をいただきました。
 - ・飼育動物の「5つの自由」についての指導
 - ・ウサギの生態や特徴に合わせた飼育の指導
 - ・飼育日記の書き方の指導

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 飼育する中で分からないことを質問し、学校担当獣医師に答えてもらいました。
- 学校担当獣医師からウサギの体温や快適に過ごせる気温や湿度、1日に飲む水の量、睡眠時間、平均寿命、骨や皮膚の様子、フンからの健康状態の把握等、詳しく教えてもらいました。

【教員・ボランティアの反応】

- ウサギの生態を知ることによって、どんなことに気を付ければよいか、具体的に知ることができました。
- 飼育を子供任せにするのではなく、大人も一緒にウサギの状態や飼育状態を把握することが大切だと改めて感じました。
- ボランティアとしてウサギの飼育にどのように関わっていけばよいか考える機会となりました。



飼育動物の「5つの自由」



ウサギの抱き方



研修会にボランティアも参加



実践事例

多摩市立連光寺小学校

【実践の概要】

- 長期休業中の飼育について、御家庭や地域にお願いすると良いことをアドバイスいただきました。
- 学校担当獣医師の指導により、ウサギの飼育環境を改善するために室内ケージ飼いに変更しました。児童が触れ合う機会が増え、皮膚病についてもすぐに対応することができました。他者を大切にする心、他者理解力の向上を図ることができました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 本校の教員が小学校動物飼育推進校としての取組をまとめ、その内容を基に学校担当獣医師より、飼育の方法等について御指導いただきました。
- 長期休業中には、御家庭に預けることで、児童の飼育動物への愛着が増すことに繋がりました。
- これまでに学校担当獣医師のアドバイスを基に進めてきた飼育活動のまとめについて、改めて学校担当獣医師より以下のアドバイスをいただきました。
- 「生活・総合発表会（学校公開）」を開催し、第2学年において学校飼育動物で学んだ内容の発表を行い、保護者に参観していただきました。学校飼育動物を活用した学習の発表を聞いていただくことで、本校の取組を保護者に知っていただきました。

獲得した知見の表現（第1学年への発表）（実際）



実践発表の画面
(1年生に向けて発表する2年生)

【教員の反応】

- 改めて実践してきた内容をまとめ、その内容について指導をいただいたことで、これまでの学校飼育活動を振り返り、その成果と課題を見つめる機会となりました。
- 学校で動物飼育を行う本質的な意義や意味について再確認することができました。

体験活動に係る実践事例

★★★★★★★★★★★★

推進校は、生活科における継続的な動物飼育に係る指導方法を開発する等、生命の尊さを理解させ、動物愛護の心を培う体験活動に取り組んでいます。体験活動の実施に当たっては、学校担当獣医師から支援を受けています。

★★

実践事例

墨田区立東吾嬬小学校

【実践の概要】

- ウサギとの触れ合いを指導計画に位置付けたことで、児童だけでなく、保護者・地域等の大人にもウサギへの興味関心を広げることができました。
- 第1学年の児童は、第5・6学年の飼育委員会児童に教えてもらいながらお世話の仕方を学習しました。



学校担当獣医師を招いての第2学年の学習の様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 児童がウサギについて知りたいことを学校担当獣医師にあらかじめ伝えておき、授業ではゲストティーチャーとして質問に答えていただきました。
- 学校担当獣医師の幅広い知識は、児童の学習の拠り所となり、もっと学びたい、もっと知りたいという児童の意欲を高めました。その結果、ウサギに関する知識が豊かになりました。



【児童の反応】

- 毎年継続して学習したり、体験の機会を設定したりすることで、確実に動物への関心や愛着を高めることができています。また、ウサギの生態を理解し、大切に育てようとする気持ちが学校全体で育っています。
- 児童が愛着をもって育てているため、その雰囲気が来校者にも伝わり、多くの方々がウサギに声を掛けています。特に未就学児童のウサギへの関心が高く、これから入学する児童にとっての安心材料の一つとなっています。



実践事例

世田谷区立松沢小学校

【実践の概要】

- 第1学年の学習で「動物ふれあい教室」を実施するにあたり、学校担当獣医師から、動物と触れ合うときに気を付けることなどについて指導助言していただきました。当日は、「ウサギと触れ合う体験」「犬と触れ合う体験」、「ウサギ・犬の心臓の音を聴く体験」のコーナーに分かれて体験学習を行いました。



【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 第1学年の学習で「動物ふれあい教室」を実施する際には、学校支援コーディネーターを通して保護者ボランティアを集め、保護者に手指消毒や誘導のお手伝いをお願いするとともに、児童が動物と触れ合う姿を見ていただきました。

【児童の反応】

- 普段、生き物に触れ合う機会のない児童が多いため、本物の動物の柔らかさ、温かさに触れることができ、児童一人一人が体験を通し喜びを感じることができました。
- 動物の心臓の音を聴かせてもらったことで、生命というものを身近に感じることができました。
- クジラからハムスターまで、動物によって心臓を打つ速度が異なり、それが寿命に関係しているという話がとても分かりやすく、学校担当獣医師が児童の反応を見ながら上手に説明してくださいました。



実践事例

中野区立美鳩小学校

【実践の概要】

- 後期から、飼育委員会が中心となって、毎週火曜日の中休み15分間に、モルモットふれあいタイムを実施しています。全クラスの児童が触れあうことができるように、1回1クラスが触れあっています。
- 第2学年の児童は、毎日モルモット小屋から、教室へモルモットを運ぶ、モルモットの登校下校を行っています。1クラス4頭ずつモルモットを割り当て、衣装ケースで飼育を行ってきました。モルモットが安心して過ごせるように、隠れる場所を班ごとに協力して作るなど、モルモットのためにできることを考えながら1年間生活しました。



モルモットふれあいタイムの様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 生活科の学習で、学校担当獣医師からモルモットの生態や、モルモットの正しい飼育方法、病気になったときの対策などを指導していただきました。学校担当獣医師から学んだことを実践しながら、今年度の学習発表会でモルモットについて学んだことをまとめ、兄弟学年の第5学年の児童や保護者の前で発表を行いました。

【児童の反応】

- モルモットふれあいタイムでは、動物が好きな児童も、苦手な児童も集まり、一緒に触れあったり眺めたりしました。「かわいい」「ふわふわ」「おとなしい」など様々な気付きや反応があり、第1学年の児童は、その共通体験を生かした生活科の学習を行いました。
- モルモットと触れあうのが苦手だった児童も、「モルモットのために」という思考が育ち、小屋をよりきれいにするための掃除のアイデアを出すなど、生き物を大切にする姿が見られるようになりました。



実践事例

青梅市立河辺小学校

【実践の概要】

- 第1学年生活科「生きもの大すき」の単元で、「ウサギのひみつを知ろう」の授業を実施しました。
- 第2学年生活科「みんな生きている」の単元で、動物との関わり方の授業を実施しました。



ウサギの心音を聞いて、生きていることを実感

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師の指導のもと、人の心音とウサギの心音の聞き比べをしました。
- 学校担当獣医師からウサギ種類や体の特徴を詳しく教えてもらいました。
- 学校担当獣医師から、ウサギの気持ちを考えて接するにはどうしたらよいか教えてもらいました。



学校担当獣医師の話を真剣に聞く

【児童の反応】

- ウサギの心音を聞いて、大きさや形が違う動物にも、人と同じ命があり、生きていることを実感しました。
- ウサギとの触れ合いを通して、愛着をもちました。
- ウサギに心を寄せて、やさしく接することができました。



● ドキドキしながらウサギと触れ合う

実践事例

多摩市立連光寺小学校

【実践の概要】

- 第2学年において、7月にウサギとの「ふれあい授業」、11月にはヤギとの「ふれあい授業」を、2月には生活・総合発表会を実施しました。
- ウサギとの「ふれあい授業」では、人とウサギの心音を聞き比べたり、ウサギの体の特徴や性質を知って正しい触れ方を実践したり、ウサギが落ち着く抱っこを体験したりしました。10月には、第2学年児童がウサギについて学んだことを第1学年児童に向けてプレゼンテーションを行い、第1学年児童は次年度の飼育活動に向けての期待をもつことができました。
- ヤギとの「ふれあい授業」では、生態について分かりやすく説明していただき、そのあとに実際に触れ合ったり、体の各部を確認したりすることで、児童の疑問を解決しながら学ぶことができました。



うさぎの心音を聴く

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師からは、お腹を見せているのは安心していること、排せつ物はなくきれいにした方が人も動物も気持ちが良いこと、栄養に富む餌は避ける、触れるときには優しく触れるなど、動物の立場に立って対応することが必要であることを学びました。
- ウサギの「ふれあい授業」では、保護者に児童補助として手伝っていただきました。これも、動物を安心させて人が優しく触れ合う手だてとなりました。



保護者の補助による触れ合い

【児童の反応】

- 触れ合うということは、双方向の配慮が必要であるということに改めて気付くことができ、動物の立場に立って考えることで、より愛着を高める授業となりました。自宅からウサギの餌となる野菜を持ってきたり、給食の残菜をヤギにあげたりする場面も見られるようになりました。